

## 販売活動における適切なやりとりを実践的・体験的に学ぶための ICT 活用 「タブレット端末を活用した作業製品販売活動」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部 1～3 年
	障がい名等	知的障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人前で話したり、伝えたりすることに苦手意識があり、相手に聞こえる声の大きさを適切に話すことが難しい。</li> <li>・金種の理解や代金、お釣りの計算に課題がある。</li> <li>・代金やお釣りの計算、商品の梱包、お金や製品のやりとり、挨拶などの同時処理が難しい。</li> </ul>
授業について  (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	作業学習 (木工班)
	単元(題材)名	単元名「作業製品を販売しよう。」
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にじのおか祭(学校祭)における木工班の作業製品販売活動を通して、金種の理解や代金、お釣りの計算などの知識・技能について学ぶとともに、個々の役割を担うことで、職業生活に必要なコミュニケーション能力や責任感について実践的・体験的に学ぶ。</li> <li>・レジ担当(代金やお釣りの計算・受け渡し)、製品の梱包・引き渡し担当・製品説明担当等の役割分担を担い、各自活動に取り組む。</li> </ul>
教材・教具支援機器について	教材・教具支援機器	<p>●タブレット端末 ●アプリ「レジスタディ」</p> 
	ねらい・工夫点	<p>&lt;ねらい&gt;</p> <p>○作業製品の販売活動を通して、代金やお釣りの計算の仕方を学ぶとともに、社会人として必要な適切なコミュニケーションの取り方や態度について ICT 機器を活用しながら実践的・体験的に学ぶ。</p> <p>&lt;工夫点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての製品の写真と金額をタブレット端末のアプリに登録しておくことで、レジ担当者が購入製品の種類と個数、金額を視覚的に捉え、ミスなくレジ計算作業に取り組むことができるようにする。</li> <li>・生徒が直接顧客と代金やお釣り、製品のやりとりを行うことで、責任感を養うとともに、キャリア意識の向上を図ることができるようにする。</li> <li>・代金やお釣りの計算はその都度各自が計算するのではなく、アプリが担うことで、販売担当者は顧客とのやりとりに集中することができるようにする。</li> </ul>
	材料・作成方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の画像、価格表</li> </ul>
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算が苦手な生徒でも、本物のレジ端末のようにボタン操作を行うことが可能となり、生徒が楽しみながらミスなく会計処理(お金やお釣りの受け渡し)を行うができた。また、顧客を待たせることなく販売活動に取り組むことができた。</li> <li>・自信をもって商品についての説明をしたり、顧客からの質問に率先して答えたりする姿が見られた。</li> <li>・やりとりの場면을重視したことで、顧客(保護者等)とのやりとりが増え、「良い製品だね。」「また買うね。」「ありがとう。」等の言葉をいただくことができた。</li> </ul> <p style="text-align: center;">⇒ 生徒の自信や達成感・仕事の楽しさ・喜び</p>	